

旭川工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	熱力学 I	
科目基礎情報							
科目番号	0005			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	機械システム工学科			対象学年	4		
開設期	前期			週時間数	前期:2		
教科書/教材	「工業熱力学入門」山本春樹, 江頭竜 共著 (森北出版)						
担当教員	石向 桂一						
到達目標							
1. 熱力学の第一法則および理想気体の状態式を理解し説明できる。 2. 理想気体の各状態変化について理解し, それぞれの変化について膨張仕事と工業仕事を計算できる。 3. 熱力学の第二法則の表現を理解し説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 (A-1,D-1,D-2)		閉じた系および開いた系におけるエネルギー式および理想気体の状態式を理解し, 正しく計算できる。		熱力学の第一法則および理想気体の状態式を説明できる。		熱力学の第一法則および理想気体の状態式を説明できない。	
評価項目2 (A-1,D-1,D-2)		理想気体の各状態変化について理解し, 可逆カルノーサイクルの各状態における諸量を計算できる。		理想気体の各状態変化について説明でき, それぞれの変化について膨張仕事と工業仕事を計算できる。		理想気体の各状態量について説明できず, それぞれの変化について膨張仕事と工業仕事の計算ができない。	
評価項目3 (A-1,D-1,D-2)		熱力学の第二法則の表現を理解し, 実際のサイクルについてカルノーサイクルとの関係を説明できる。		熱力学の第二法則の表現を説明できる。		熱力学の第二法則の表現について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	熱力学が科学技術にとって極めて重要な科目であることの認識を深め, 基本となる法則やいくつかの概念について十分に理解し, さらに熱的諸量の計算ができることを目標とする。これを達成するために, 熱力学の第一法則を学び, また, 動作流体の例として理想気体の状態変化を学ぶ。						
授業の進め方・方法	熱力学に関する法則や概念について講義し, 公式については導出過程を詳細に説明する。中間試験および期末試験時に授業内容をレポートにまとめ提出する。						
注意点	・教育プログラムの学習・教育到達目標の各項目の割合は, A-2(30%), D-1(50%), D-2(20%)とする。 ・総時間数45時間 (自学自習15時間) ・自学自習時間(15時間)は, 日常の授業(30時間)に対する予習復習, レポート課題の解答作成時間, 試験のための学習時間を総合したものとする。 ・評価については, 合計点数が60点以上で単位修得となる。その場合, 各到達目標項目の達成レベルが標準以上であること, 教育プログラムの学習・教育到達目標の各項目を満たしたことが認められる。 ・熱が人間をはじめ生命の命の営みにどのような関係があるかにも関心を寄せるよう留意する。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 基礎的事実と定義		授業の概要と評価方法について理解できる。 熱力学的系, 系の平衡, SI多単位について理解できる。		
		2週	熱力学の第一法則		エネルギー保存則・熱収支を理解し計算できる,		
		3週	閉じた系と開いた系 1		熱・仕事・内部エネルギー・エンタルピー・p-v線図を理解できる。両系のエネルギー式を理解できる。		
		4週	閉じた系と開いた系 2 外界にする仕事 1		膨張仕事と工業仕事の違いを理解し, 計算による扱いができる。		
		5週	外界にする仕事 2		膨張仕事と工業仕事の違いを理解し, 計算による扱いができる。 章の演習。		
		6週	理想気体の状態式		理想気体の定義について, 3通りの表現を理解できる。		
		7週	気体分子の運動		圧力, 温度, 内部エネルギーについてミクロな見解を理解できる。		
		8週	中間試験		学んだ知識を確認できる。		
	2ndQ	9週	答案返却および解説 理想気体の状態変化 1		答案の確認および理解度を確認することができる。 等圧・等積・等温・ポリトロープの各状態変化における熱と仕事の関係を理解し, 計算の扱いができる。		
		10週	理想気体の状態変化 2		等圧・等積・等温・ポリトロープの各状態変化における熱と仕事の関係を理解し, 計算の扱いができる。		
		11週	気体の混合 1		ダルトンの法則を理解し, 混合気体の状態変化を扱うことができる。		
		12週	気体の混合 2		ダルトンの法則を理解し, 混合気体の状態変化を扱うことができる。 章の演習。		
		13週	カルノーサイクル		サイクルを理解し, カルノーサイクルの特性を理解できる。		
		14週	不可逆現象と熱力学の第二法則		自然現象の方向性, 熱力学の第二法則の表現を理解できる。 演習問題。		
		15週	期末試験		学んだ知識を確認できる。		
		16週	答案返却および解説		答案の確認および理解度を確認することができる。		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
専門的能力	分野別の専門工学	機械系分野	熱流体	熱力学で用いられる各種物理量の定義と単位を説明できる。	2			
				閉じた系と開いた系、系の平衡、状態量などの意味を説明できる。	2			
				熱力学の第一法則を説明できる。	2			
				閉じた系と開いた系について、エネルギー式を用いて、熱、仕事、内部エネルギー、エンタルピーを計算できる。	2			
				閉じた系および開いた系が外界にする仕事をp-V線図で説明できる。	2			
				理想気体の圧力、体積、温度の関係を、状態方程式を用いて説明できる。	2			
				定積比熱、定圧比熱、比熱比および気体定数の相互関係を説明できる。	2			
				内部エネルギーやエンタルピーの変化量と温度の関係を説明できる。	2			
				等圧変化、等積変化、等温変化、断熱変化、ポリトロプ変化の意味を理解し、状態量、熱、仕事を計算できる。	2			
評価割合								
	試験	レポート	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	25	5	0	0	0	0	0	30
専門的能力	45	5	0	0	0	0	0	50
分野横断的能力	10	10	0	0	0	0	0	20